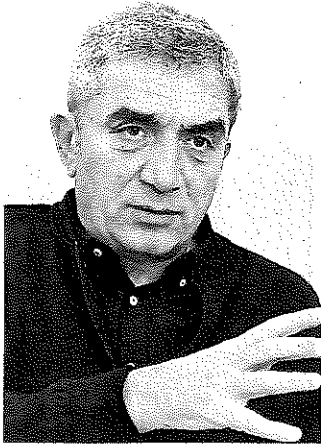


トルコのEVバス 日本で発進

カルサンのオカン・バッシュCEOに聞く



トルコの商用車メーカーであるカルサンが全長約6.5メートルの小型ノンステップ電気バス（EVバス）「e-ジェスト」を12月に日本で発売した。カルサンは欧州を中心にEVバス販売を増やしている。日本市場に参入した狙いや、e-ジェストの特徴について、オカン・バッシュ最高経営責任者（CEO）に聞いた。

60年超の歴史持つ商用車メーカー

「カルサンはどのようなメーカーか」

「当社はトルコ初の自動車メーカーのひとつで、60年超の歴史を持つ。主に商用車を製造しており、自社ブランドに加え、欧州の完成車メーカーのOEM（相手先ブランド）による生産も手がけている」

「EVバスを手がける背景は」

「地球温暖化と都市圏での人口集中に伴う交通問題は世界共通の課題で、EVバス市場が世界中で広まっている。当社は2018年末に初のEVバスを投入した。その後も

「日本で培ったノウハウを開発に還元する」と語るカルサンのバッシュCEO

開発を続け、21年にはすべてのバスを電動化した。現在全長6〜18メートルまで合わせて5車種のEVバスをそろえている。欧州に加え、北米などにも進出済みだ」

「22年の販売台数は世界で約300台だった。EVシフトは商用車に限らず、自動車全体のトレンドだが、中でも都市圏のバスの電動化が進んでおり、今後も成長が見込める。だからこそ、われわれはこの分野に注力している。欧州各国での当社のEVバスのシェアはまだまだだが、平均すると60%程度だ。将来的には1割に引き上げたい」

「EVバスの生産能力は」

「年間約1千台のEVバスを生産する体制を敷いている。燃料電池バス（FCVバス）やEVバスといった排出

「年間約1千台のEVバスを生産する体制を敷いている。燃料電池バス（FCVバス）やEVバスといった排出

「年間約1千台のEVバスを生産する体制を敷いている。燃料電池バス（FCVバス）やEVバスといった排出

「年間約1千台のEVバスを生産する体制を敷いている。燃料電池バス（FCVバス）やEVバスといった排出

「年間約1千台のEVバスを生産する体制を敷いている。燃料電池バス（FCVバス）やEVバスといった排出

「年間約1千台のEVバスを生産する体制を敷いている。燃料電池バス（FCVバス）やEVバスといった排出

「年間約1千台のEVバスを生産する体制を敷いている。燃料電池バス（FCVバス）やEVバスといった排出

「年間約1千台のEVバスを生産する体制を敷いている。燃料電池バス（FCVバス）やEVバスといった排出

「年間約1千台のEVバスを生産する体制を敷いている。燃料電池バス（FCVバス）やEVバスといった排出

「年間約1千台のEVバスを生産する体制を敷いている。燃料電池バス（FCVバス）やEVバスといった排出

「年間約1千台のEVバスを生産する体制を敷いている。燃料電池バス（FCVバス）やEVバスといった排出

「年間約1千台のEVバスを生産する体制を敷いている。燃料電池バス（FCVバス）やEVバスといった排出

「年間約1千台のEVバスを生産する体制を敷いている。燃料電池バス（FCVバス）やEVバスといった排出



12月に日本で発売したEVバス「e-ジェスト」

「日本では車両品質の高さに加え、さまざまな基準を厳格に守ることが求められる。当社にとって大きな挑戦になるだろうが、他の地域では得た経験を得られると考えている。日本で培ったノウハウを今後の開発に還元し、会社全体の成長につなげていきたい」

（松山 知彦）

初年度目標は100台 将来はさらに上を

「日本市場に進出した狙いは」

「日本では車両品質の高さに加え、さまざまな基準を厳格に守ることが求められる。当社にとって大きな挑戦になるだろうが、他の地域では得た経験を得られると考えている。日本で培ったノウハウを今後の開発に還元し、会社全体の成長につなげていきたい」

「日本市場に進出した狙いは」

（松山 知彦）